

ワシン エコステイン

仕 様 書

和信化学工業株式会社

木工塗料事業部

平成 年 月 日

§ 使用方法

1. 使用前は、フタをしたまま十分に攪拌して下さい。
2. 塗装には刷毛またはローラー刷毛を使用して下さい。
3. 色が濃い場合は、塗料用うすめ液またはクリヤーで希釈して下さい。
ただし、屋外で使用する場合、希釈は耐候性の低下につながりますのでご注意ください。
4. 使用後の刷毛・容器類は塗料用うすめ液で洗って下さい。
5. 塗料の付着した布切れなどを積み重ねて放置しておきますと、自然発火することがありますので、その都度焼却するか廃棄するまで水につけておいて下さい。

§ 塗料性状

外 観	各色液体	
粘 度	11秒 ± 1秒	No.4フォードカップ / 25
密 度	0.78 ~ 0.84 ± 0.02	25
不揮発分	11.2 ~ 22.2 %	
保管安定性	異状なし	50 1ヵ月

§ 乾燥性目安

塗布量 (1回あたり) 50 ~ 80 ml / m² 気温/湿度 25 / 60%

乾 燥

1夜以上

条件によって塗布量、乾燥状況は変わりますので参考として下さい。

§ 塗膜性能

項 目	結 果	条 件	備 考
耐 酸 性	○	5%酢酸水 スポットテスト24時間	カバ合板に 2回塗り、 塗装後 7日後テスト
耐 アルカリ 性	黒変	5%炭酸ナトリウム水 スポットテスト24時間	
耐 水 性	○	水道水 スポットテスト24時間	
耐アルコール性		60%イタール スポットテスト24時間	
耐 溶 剤 性	-	塗料用うすめ液 スポットテスト24時間 キシレン スポットテスト24時間	
耐 マジック 性	黒 赤	24時間後ベンジン拭き取り	
耐 クレヨン 性	黒 赤	24時間後ベンジン拭き取り	
耐 イ ン キ 性	黒 赤	スポットテスト24時間	
耐 湿 熱 性		300ccビーカー沸騰水 1時間	

§ 各種上塗り塗料のステインへの密着性

カバ突板合板、P150サンドペーパーにて研磨後1回塗り、
常温にて1日間乾燥後各塗料を上塗りし、密着性を確認。

上塗り塗料	ステイン 拭取りなし	ステイン 拭取り	備考
アクリックス 3200 外部用クリアー			クロスカット セロテープ法 印の付いた ものはリフテ ィングの恐れ がある為、確認 が必要です。
アクリックス 3350 サテング			
アクリックス 3400 木部用ウルタンクリアー			
アクリックス 3500 フロア			
アクリックス 3550 白木			
ワシンエコフロア			
ワシン Non-TX ウルタンクリアー			
ワシンエコMフロア WT			
エコ フィーバ [®] -ラック つやあり			
ワシン Non-TX ラッカークリアー			
ワシンアンダーシーラー			

評価： 良

× × 悪

§ 塗装工程

(例1 屋内ステイン調仕上げ)

工 程	使 用 塗 料	乾 燥 時 間	塗 布 量	備 考
素地調整	P 1 5 0 サンドペーパー研磨			
1 回 目	ワシンエコステイン	8 時間以上	5 0 ~ 8 0 ml/m ²	刷毛塗装
2 回 目	ワシンエコステイン	1 夜以上	5 0 ~ 8 0 ml/m ²	刷毛塗装

塗布量は目安であり、塗布素材や塗装方法により異なります。
 ワシンエコステイン塗装工程は拭き取り仕上げも可能です。(拭き取りの場合の乾燥時間の目安は4時間以上です。)
 その際、拭き取ったウエスの処理にご注意下さい。

(例2 屋内 床用着色仕上げ)

工 程	使 用 塗 料	乾 燥 時 間	塗 布 量	備 考
素地調整	P 1 5 0 サンドペーパー研磨			
1 回 目	ワシンエコステイン	8 時間以上	5 0 ~ 8 0 ml/m ²	刷毛塗装
2 回 目	ワシンエコフロア	1 夜以上	8 0 ~ 1 0 0 ml/m ²	刷毛塗装
研 磨	P 3 2 0 サンドペーパー研磨			
3 回 目	ワシンエコフロア	1 夜以上	8 0 ~ 1 0 0 ml/m ²	刷毛塗装

塗布量は目安であり、塗布素材や塗装方法により異なります。
 ワシンエコステイン塗装工程は拭き取り仕上げも可能です。(拭き取りの場合の乾燥時間の目安は4時間以上です。)
 その際、拭き取ったウエスの処理にご注意下さい。

(例3 屋外ステイン調仕上げ)

工 程	使 用 塗 料	乾 燥 時 間	塗 布 量	備 考
素地調整	P 1 5 0 サンドペーパー研磨			
1 回 目	ワシンエコステイン	8 時間以上	5 0 ~ 8 0 ml/m ²	刷毛塗装
2 回 目	ワシンエコステイン	1 夜以上	5 0 ~ 8 0 ml/m ²	刷毛塗装

塗布量は目安であり、塗布素材や塗装方法により異なります。

屋外に塗装する場合は、塗布量が少ないと十分な耐候性を得られない事があります。
 原液でたっぷり塗装することをお勧めします。

§ 使用上の注意

- 1 . 塗料の付着した布切れ , 塗料カス , 塗膜の研磨粉などを積み重ねて放置しておきますと、自然発火することがありますので、その都度焼却するか廃棄するまで水につけておいて下さい。
- 2 . 火気のあるところでは使用しないで下さい。
- 3 . 塗装中、乾燥中とも換気を十分行い、蒸気を吸い込まないようにして下さい。
- 4 . 取り扱い中は、できるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて保護具等を着用して下さい。
- 5 . 容器からこぼれた場合には、布で拭き取って水をはった容器に保管して下さい。
- 6 . 取り扱い後は、手洗い及びうがいを十分に行って下さい。
- 7 . 作業衣等に付着した場合は、その汚れをよく落として下さい。
- 8 . 皮膚等に付着した場合には、多量の石鹼水で洗い落とし、痛みまたは外観に変化があるときには、医師の診察を受けて下さい。
- 9 . 目に入った場合には、多量の水で洗い、直ちに医師の診察を受けて下さい。
- 10 . 蒸気、ガス等を吸い込んで、気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けて下さい。
- 11 . 誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
- 12 . 火災時には、炭酸ガス , 泡または粉末消火器を用いて下さい。
- 13 . よくフタをし、直射日光を避けたところに保管して下さい。
- 14 . 子供の手の届かないところに保管して下さい。
- 15 . 中身を使いきってから廃棄して下さい。
- 16 . 本来の用途以外には使用しないで下さい。

更に詳細な内容が必要な場合には、安全データシート (S D S) をご参照下さい。